

事業の背景・目的

ホロテンナンショウは雄株が育つと雌株になる雌雄偽異株であることから、生息域外保全と種子繁殖を進めるためには株を生育させる技術と栽培法の確立が必要である。そのためには保有個体の栽培の継続と自生地調査による生育特性の解明、自生地での情勢を知る必要がある。ハザクラキブシは生息域外保全を行う上で危険分散のために増殖する必要がある。普及啓発を図るために展示場所の整備を進める必要がある。

事業の内容

事業① ホロテンナンショウの自生地調査

- ・自生地で既知の個体の確認と新たな個体、自生地の検索を行うとともに周囲の環境を記録した。



事業② ホロテンナンショウの維持

- ・保有するホロテンナンショウを維持栽培し栽培特性を記録した。



事業③ ハザクラキブシの維持、展示

- ・保有するハザクラキブシを維持栽培し栽培特性を記録した。危険分散のため挿し木にて増殖した。
- ・増殖した苗を展示した。



得られた成果

- ・ホロテンナンショウの自生地調査では、既知のホロテンナンショウ3株とその周辺で新たに5株を確認、近隣地域で新たな産地を2か所（各1株ずつ）確認し、それぞれの自生地の環境と各個体の位置情報を記録できた。自生地で得た情報は日本植物園協会が協会が管理する「絶滅危惧植物保全データベース（一部非公開）」に入力し日本植物園協会加盟園と情報の共有を図ることができた。
- ・保有するホロテンナンショウは、調査で得た情報をもとに栽培場所の植物の刈込みや除去を行い環境整備することができた。
- ・温室内に植栽中のハザクラキブシの株元の土を入れ替え根部の健全化を図ることができた。挿し木増殖した苗を他の小笠原の植物とともに展示し、施設利用者が見学できる展示場所を設けることができた。
- ・今年度の調査や栽培から、次年度以降の自生地調査や生息域外保全の下地となる情報を得ることができた。

